



聚樂秘藏  
十八

~ 13  
3326  
18



13  
3326  
18

# 木屋

二十四

茶儀

夏梁秘藏後卷之第八

月海

伴氏書房之抄

東坡遺稿

大正十八年九月  
本大學出版部  
贈

要樂秘藏卷之八

付録 書寫の事

書寫の事

書寫の事

書寫の事

書寫の事

多岐の志士は此の事ありては其の志を  
とては海軍の志士を憐れむるに  
しるべきなりとありては其の志を憐  
れむるにけしきありては其の志を  
かこむるにけしきありては其の志を  
憐れむるにけしきありては其の志を  
あはれむるにけしきありては其の志を

中津佐もさし上夜の通言ことと道  
首尾は相済しせば君ありては  
城の門をわたりては其の志を  
酒を酌みよめしとありては其の志を  
初より其の志を憐れむるにけしきあり  
ては其の志を憐れむるにけしきあり  
ては其の志を憐れむるにけしきあり  
ては其の志を憐れむるにけしきあり

法政の夜宿をばあはれに侍らざるべし  
亦村にも合未作の用事あるに就て  
下り家内を為く候へども其が考案も  
其後を以て休まざる程の事ありしに  
其長年之に就てあはれ考案したるに  
候へども其の事も其の事なりと  
昔國の事と其の事なりと

とらざるに侍らざるに侍らざるに  
その者の事なりと其の事なりと  
山崎の事なりと其の事なりと  
其方かす志の候へども其の事なりと  
させぬに候へども其の事なりと  
御事なるに候へども其の事なりと  
對しての事なりと其の事なりと



と心へ云せしむる余を人

口より速く言ひしは行

誠より文藝同様に作らるる下

まの心は未だ之の所へ使は

入書と云はしむる暇も

あつて事休むべしと云ふ

云ふは石田の事なりと云ふ

之威勢は遠くの者なりと云ふ

出づるは古くは古くは古く

必らずなりと云ふは古くは

又しと云ふは古くは古くは

又しと云ふは古くは古くは

又しと云ふは古くは古くは

又しと云ふは古くは古くは

又しと云ふは古くは古くは





ゆきさきく種くさく繞く種  
係りて案じし多岐に成と  
諸國よちせきとて異中事  
女の病よ又好くもさうくお世濟  
と得し者く而く河内をせらる  
あはし人百姓と何れ津く之知れ  
とも世濟と求めくはびくは後もの

之威があるくはさうくははの中  
まお所らるるをの芳は流りり  
い葉のさくも中く胃を水行し  
帽子と穿つる者花の元と産一六  
汁の更く地下人の病くもさく備も産  
蓋をおく御宿女とさくひの病と病と  
又所方よちる午余れ中くはく異國秋

あはれなる中られあはれなる  
の心は成る神は徳は  
念念の心は徳は  
念念の心は徳は

人生莫成婦人身  
一生苦樂任他人  
あはれなる中られあはれなる

佛國の君はあはれなる

あはれなる中られあはれなる  
あはれなる中られあはれなる  
あはれなる中られあはれなる  
あはれなる中られあはれなる

浪の舟の橋を渡り下りて  
 ちかひのふ威の何と云ふ  
 くらりとのあや身宿りの威後  
 の顔色あてもらうのびくひる  
 世をとりて移びの流子と身宿り  
 へしとる者なり袂の雨のひる  
 此とれは好侍なる威おとほせ

ちの国は侍り客の向の海は  
 秀次公流人れゆ席の中と舞は  
 山麓をきりて世女房と人の娘を持  
 りりよ威成を園白の言威り  
 申れんものとありを親の智ひ娘を法  
 音りれは秀次公の流をりて世娘  
 十和殿のいふ実教は実所事毎よ

増へりるる娘をよききりて  
お

りたも一雨のちりて  
あつた

さしと親をよききりて  
あつた

行年のもよききりて  
あつた

母をよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

母のよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

あつたのよききりて  
あつた

高き其基しつらぬもつらぬ愁傷れ  
新あつらひぬれは流るあつらひ  
婿のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ

高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ  
高き云うつらぬれは流るあつらひ  
わが心も親もあつらひぬれは流るあつらひ  
舞のあつらひぬれは流るあつらひ





思祖せしりる世をせしめし威

まはりの世をせしめし世を

所れ恨りし世をせしめし世を

かたきと云ふ世をせしめし世を

し世をせしめし世をせしめし世を

の世をせしめし世をせしめし世を

の世をせしめし世をせしめし世を

あつきの世をせしめし世を

るの世をせしめし世を

親の世をせしめし世を

かたきと云ふ世をせしめし世を

世をせしめし世をせしめし世を

かたきと云ふ世をせしめし世を

は世をせしめし世をせしめし世を



物も実れ成るは自然の形也

よごるる皆うへ谷ちの地也

ちたりのよごるる谷ちと夜無後谷也

ちのち考公の事なるはとち也

あひのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

ちのち考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

考公の事なるはとち也

ひるも... 首尾... 大... の... 云... 清... 同... 切...  
*(Small vertical annotations in the right margin)*

は... 行... 中... 水...  
*(Small vertical annotations in the left margin)*

勅書しやくしよのしやく便べんとしやく立たてしやくてしやくのしやく外がいにしやくあり  
あしやくくしやく信しん後ご人にん しやくとしやく傳でんのしやくましやくるしやく年ねんのしやく飲く  
るしやくましやくるしやく五ごひしやくとしやく傳でんのしやくましやくるしやく年ねんのしやく飲く  
等らとしやく立たてしやくてしやくのしやく外がいにしやくあり  
力りきもしやく進しんつしやくるしやくましやくるしやく年ねんのしやく飲く  
上じやう圖とのしやくましやくるしやく年ねんのしやく飲く  
務むましやくちしやくらしやくとしやく見みえしやくましやくるしやく年ねんのしやく飲く

定ちやう一いつ意いのしやく外がいにしやくあり  
未み度ど者しやく素そのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり  
口くち行ぎやう要やうのしやく外がいにしやくあり



せむらひ辭ありしころはくは考へ元  
來代國の道程よおとせし  
事遠くはなれは中作あるり  
節とありてあらはしむる  
らまゝ事なりはくはくは  
の事一冊をききしはくはくは  
極めしむるりきき毎を油が  
大目威

一りの函と兼らひききしはくはくは  
飛まはせしむるりきき  
油が知しむるりきき  
と知おほしむるりきき  
まゝりききしむるりきき  
糸とありしむるりきき  
冊々のまゝりききしむるりきき

皆一旦此禮儀より其の役者たる  
る所の儀宜しくしなむ者こそ  
の事なりと云ふは相無れは申す  
の所なりと云ふは相無れは申す  
君の命ありは一命成つたは申す  
結恩の徳なるは  
うよむるが事公室の長方が

心成る事なりと云ふは  
相成る事なりと云ふは  
評儀の事なりと云ふは  
りり成抑延の事なりと云ふは  
さる事なりと云ふは  
はり成知事なりと云ふは  
る事なりと云ふは

まのこころと世と結び細るのまに成

きは連つるまを命てつと保つ

汗零の外なきふらひとあつて保

ふと足あつたらふらふらとの

ち成れ減てあつてふらふら保

あつてあつてあつてあつて保

の保るまをびとあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

あつてあつてあつてあつて保

弟 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

田舎 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

く いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

り いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

伴 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

深 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

同 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

伴 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

し いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

也 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

と いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

通 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

る いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

中 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下 いづれ 下

と心へ聲めれば竹葉の如き  
芝草の如きも竹葉の如き  
心より當りては竹葉の如き  
毒の如きぬれば竹葉の如き  
治人のまらぬれば竹葉の如き  
古縁の如きれば竹葉の如き  
心より當りては竹葉の如き

竹葉の如きれば竹葉の如き  
心より當りては竹葉の如き  
毒の如きぬれば竹葉の如き  
治人のまらぬれば竹葉の如き  
古縁の如きれば竹葉の如き  
心より當りては竹葉の如き





石川  
右左衛門

石川也九郎  
つるも  
世不ぬ



石川也九郎

石川也九郎  
つるも  
世不ぬ

